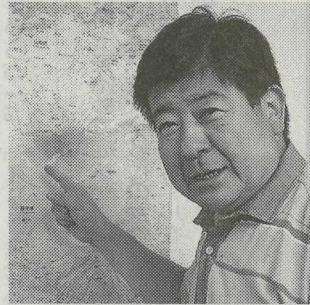


保全の在り方 渡辺豊博・都留文科大学教授提言

しばらく登山止め 信仰の意味学んで



世界の富士山

富士山の世界文化遺産登録が決まった世界遺産委員会。都留文科大学(山梨県)で「富士山学」を教える渡辺豊博教授(63)は三島市はカンボジアのプノンペンに飛び、現地で審議を見届けた。世界自然遺産を目指した20年前の署名活動にも関わった立場から、富士山の保全の在り方を提言する。

世界遺産委員会には37件の申請があったが、取り下げなどもあり、登録されたのは19件。登録率は51%で、登録へのハードルが大変厳しくなっています。

これで見れば世界遺産は計981件。1千件に近づき、世界遺産の意味や意義、在り方について議論されることになりそうです。

今回の審議での特徴的な論点は、文化遺産・自然遺産・複合遺産ともに「それらの価値を証明するためのより詳細なモニタリング調査の実施と、観光開発・拡大からの保護を保障する管

理体制の確立」でした。このほか、「遺産領域の将来的な拡大」「スタッフやボランティアの訓練」「国による十分な予算の確保」「定住人口を支え、持続可能なエコツーリズム(新たな地域経済)の実施」も議題に上がりました。

これらはまさに富士山に突きつけられている課題です。この課題を解決できずに登録延期になった地区もありました。

富士山は世界文化遺産登録と同時に、2016年2月1日までに「保全状況報告書」の提出を求められました。国家的な見地からの総合的な対策が必要とされているのです。

今、富士山周辺は観光客の激増に喜び、浮かれています。富士山は世界基準に照らし、大変重い、難しい宿題・課題を背負ったことを行政や国民は認識しているのでしょうか。

しばらく、富士山への登山は止めて下さい。遠くから眺め、富士山の本質性と信仰の文化的な意味を学び、富士山の環境問題を認識し、具体的にどのような対策が必要とされているのか、富士山再生へのアクションプラン(管理計画)を考えてみて下さい。

(寄稿)